



世界無形遺産

令和八年四月十二日(土)十二時半開演(十一時半開場)

# 能 円満井会定例能

於 矢 来 能 楽 堂

〒162-0805 東京都新宿区矢来町六〇  
電話 〇三―三二六八―七三二一

全自由席

Sat.,Apr.11 2026 / 12:30 ~16:50 / ¥6,000 (¥2,000 for 25years old or younger)

## MICHIMORI

A priest staying at Naruto of Awa country for summer goes out to the shore and reads sutra to pray for the souls of Heike worriers who were perished in the battle. An old fisherman and a fisherwoman approach by boat and listen to the sutra. They tell the priest that Kozaisho no Tsubone, the wife of Taira no Michimori, drowned herself here when she knew her husband's death in the battle of Ichinotani. The old couple finish the story and disappear into the waves. While praying for their souls, they come back in their true form of Michimori and his wife, and tell a story that Michimori was blamed by his brother because he wanted to see his wife before his final battle. They both rejoice that they finally get the salvation together by the prayers.

## SU HAJIKAMI

A vinegar seller and a ginger seller come across on their way to the capital. They both insist on the historic superiority of their merchandise, and agree to decide which one is more superior by playing on words. One uses a word, su meaning sour, and the other uses *kara* meaning hot during a pun rally. They enjoy the rally and eventually get along well.

## AMA

Minister Fusazaki and his retinue go to Shido Bay in Shikoku to hold a mass for his deceased mother's soul. He meets a female diver who tells them an old story about three treasures from China. One of them, a pearl, sunk into the deep sea. Lord Tankai wished to get it back and was acquainted with a young female diver. Having their son, she was convinced to fetch the jewel from the dragon palace under the sea so as to make the son the lord's heir. She did it at the cost of her life. The female diver reveals herself as the spirit of the minister's mother. Later she reappears as a dragon lady and dances delightfully, attaining Buddhahood through the Sutra.

<TYoshikawa/STakahashi>

- お申し込みは出演能楽師、または金春円満井会までどうぞ。
- 上演中の無断撮影、録音、録画は固くお断り申し上げます。
- 出演者、曲目は都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

<主催>

## 公益社団法人 金春円満井会

komparu-enmaikai

〒167-0042

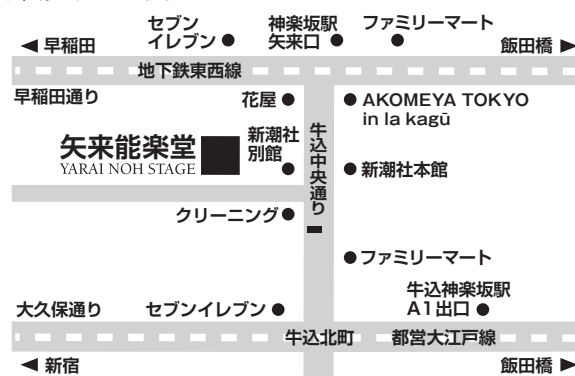
東京都杉並区西荻北 2-27-7 アルファ西荻窪 2F

電話 03-6913-6714 FAX 03-6913-6775

ホームページアドレス

<https://www.komparu-enmaikai.com/>

### 矢来能楽堂地図



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩 2分  
都営大江戸線牛込神楽坂駅A1出口より徒歩 5分  
駐車場がございません。  
近隣のコイン駐車場をご利用ください。

## 通盛 (みちもり)

阿波の鳴門にて一夏を過ごす僧(ワキ)たちがいつものように波辺で平家の弔いをしていると、夜の闇の中にかがり火をたいた舟が読経の声に惹かれ近づいてくる。僧が舟上の老人(シテ)と若い女性(ツレ)を不思議に思い声をかけると、二人は平家一門の悲劇のことを語る。特に平通盛と小宰相局夫婦の愛情の深いこと、合戦間近まで別れを惜しみ、しかし通盛は討たれ小宰相局もその後を追い舟から身を投げた様子をまるで自分のことのように語り、そのまま海中に姿を消す。

僧が通盛夫婦のために法華経を唱えていると、通盛夫婦が現れ戦の様子などを再現して見せ、やがて成仏の身となり消え失せるのだった。

夫婦の情愛に焦点のあてられた名曲です。前半では小宰相局の視点で、夫の戦死を悟り乳母の手を振り切り入水する様子が語られ、また後半では通盛が合戦前夜に妻に自分が死んだ後のことを告げ別れの盃を交わしたこと(平家物語では、この時に小宰相局から念願の子供を授かったことを告白されています)、明け方には弟の教経が通盛を探しに来て恥じながら合戦に赴く様などは、人間としての生々しい哀切に満ちています。(布由樹)

## 海人 (あま)

藤原不比等の子、房前(子方)は生まれてまもなく死別した母を弔う為、母の終焉の地、讃岐国志度の浦房前(香川県)を訪れる。そこで海人の女(前シテ)と出会い、自らの出生の秘密を知る。

昔、唐の高宗皇帝の後となった不比等の妹は、藤原氏縁の寺である興福寺へ三種の宝を贈った。しかし、その内の一つ、めんこうふはい たま面向不背の珠はこの沖で龍神に奪われてしまった。不比等は何としてでも珠を取り戻そうと、この地で海人乙女と契り、一子を儲ける。この子を藤原氏の嫡子に立てることを条件に、海人に珠の奪還を要求する。海人は、我が子の為と自らの命と引き替えに珠を取り返したのだった。


女は語りつつ珠取りを再現し終えると、実は我こそ房前の母の霊であると素性を明かす。手紙を房前に渡すと、涙ながらに海の底へと姿を消した。(中入)

渡された手紙を開くと、亡くなった後13年もの間、永闇に彷徨う母の苦しみが綴られていた。法要に導かれ龍女となった母の霊(後シテ)が姿を現し、法華経の功德によって救われたことを喜び、舞を舞う。

この房前の孝養により、志度寺は仏教繁昌の霊地となった。

志度寺には藤原房前が母の為に建立したと伝えられている「海女の墓」が現在でも残っているそうです。(柏崎)

「定例能入場券」「カレンダー」「金春月報」などご希望の方はインターネットからご購入頂くことができます。




※上記 QR からどうぞ。

<https://ws.formzu.net/fgen/S38826101/>

(公社) 金春円満井会 寄付金募集

金春円満井会では「能楽の普及」「演能会の実施」「謡本や金春月報の刊行」「能楽師の育成」などの活動を行っております。金春流能楽という伝統を後世に伝えるために皆様のご協力とご支援を仰ぎたく、お願い申し上げます。



※上記 QR からどうぞ。

<https://www.komparu-enmaikai.com>

# 番組組

〈十二時三十分〉

後ツレ／小宰相  
前ツレ／女  
中村 昌弘  
後シテ／平通盛  
前シテ／漁翁  
本田布由樹

## 能通盛

ワキ／旅僧

福王 和幸

大鼓 亀井 洋佑  
小鼓 森澤 勇司

太鼓 姥浦 理紗  
笛 槻宅 聡

アイ／所の者

高澤 祐介

後見

横山 紳一  
辻井 八郎

地謡

荻野 将盛 金春 憲和  
金春 嘉織 本田 光洋  
大塚龍一郎 山井 綱雄  
金春 政和 本田 芳樹

## 狂言 酢薑

シテ／酢売り

三宅 右矩

アド／薑売り

三宅 近成

後見 前田 晃一

〈二時十分頃・休憩十五分〉

春日竜神 岩松 由実  
仕舞 熊 野キリ 中野由佳子  
網ノ段 林 美佐

深津 洋子  
梅井みつ子  
安達 裕香  
大澤久美子

仕舞

熊 野キリ

中野由佳子

地謡

深津 洋子  
梅井みつ子  
安達 裕香  
大澤久美子

仕舞

千 手

金春 嘉織

地謡

高橋 忍  
辻井 八郎  
岩間啓一郎

鞍馬天狗 本田 芳樹

〈三時頃・休憩十五分〉

子方／房前の大臣  
倉脇 蓮奈

後シテ／竜女  
前シテ／海人  
柏崎真由子

## 能海人

ワキ／従者

野口 能弘

大鼓 大倉栄太郎  
小鼓 住駒 充彦

太鼓 林 雄一郎  
笛 八反田智子

アイ／所の者

金田 弘明

後見

金春 安明  
井上 貴覚

地謡

伊藤 珠美 岩松 由実  
深津 洋子 村岡 聖美  
大澤久美子 林 美佐  
安住 芳江 安達 裕香

# 附祝言

〈終演予定四時五十分〉

※感染症予防、対策にご協力お願い申し上げます

## 円満井会定例能公演予定

於 矢来能楽堂 十二時半始

### 令和八年度公演

令和八年 六月十三日(土) 野宮 本田 芳樹 熊坂 村岡 聖美  
令和八年 十月三日(土) 楊貴妃 森 瑞枝 鶴 林 美佐  
令和九年 一月二十三日(土) 兼平 中村 昌弘 葵上 安達 裕香  
令和九年 三月六日(土) 籠 中野由佳子 羽衣 岩松 由実

■入場料 一般六、〇〇〇円 25歳以下二、〇〇〇円

※都合により曲目・出演者に変更のある場合がございます。